

明和町の古墳時代

約 1800 年前から 1500 年前の日本列島では、地域の有力者が亡くなると古墳と呼ばれる山のように大きなお墓を造りました。古墳は台地の上や丘陵地に多く点在しており、明和町には今もたくさんの古墳が残されています。

・^{たかつか こふんぐん}高塚古墳群

明和町の南部丘陵地には 5 世紀中頃から後半頃(1500 年前)にかけて古墳が作られていました。その中で最も大きな古墳が高塚1号墳です。全長 72 m で、^{ほたてがいしき こふん}帆立貝式古墳と呼ばれる形をしています。

・^{かんざきやま}神前山1号墳

神前山1号墳は上村にあった帆立貝式古墳です。神前山1号墳と2号墳は昭和 47 年(1972)に開発行為により壊され、今は残されていません。しかし壊される前に緊急で行った発掘調査により、この古墳の姿が明らかになりました。^{えんとうはにわ}円筒埴輪の列や、^{が もんたいしんじゅうきょう}画文帯神獸鏡などが見つかっています。

・^{さかもと こふんぐん}坂本古墳群

坂本に位置する三重県指定史跡の古墳群です。最も大きなものは前方後方墳の1号墳で、長さは 31.2 m ある前方後方墳です。発掘調査で埋葬されていた場所から、^{まいそう}金銅装頭椎大刀と呼ばれる刀が見つかりました。出土した遺物から7世紀前半(1400 年前頃)の古墳とわかりました。



明和町文化財解説シート
「明和町の古墳時代」



明和町の古墳



高塚1号墳（5世紀中）



神前山1号墳（5世紀後）



坂本1号墳（7世紀前）



キーワード：古墳時代、帆立貝式古墳、金銅装頭椎太刀